

平成25年度 H5N1 プレパンデミックワクチンの備蓄株の選定

平成25年9月2日
健康局結核感染症課

1. 背景 (資料2、1頁参照)

- 国の新型インフルエンザ対策政府行動計画に基づき、平成18年度から鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルス株のプレパンデミックワクチンを毎年約1,000万人分製造し、原液(一部製剤化)の備蓄を行ってきたところ。
 - ※ 平成21年度は新型インフルエンザA(H1N1)が発生を受けてパンデミックワクチンを製造したため、プレパンデミックワクチン製造は行っていない。
- 現在のプレパンデミックワクチンの備蓄株と量：ベトナム株・インドネシア株、アンフィ株及びチンハイ株を各約1,000万人
- 平成22年度に製造したベトナム株・インドネシア株のプレパンデミックワクチンは、平成26年3月末に使用期限が切れるため廃棄する予定。

2. 備蓄株選定のプロセス (資料2、2-5頁参照)

- 厚生労働省新型インフルエンザ専門家会議ワクチン作業班会議を開催し、以下の知見に基づき議論を行った(平成25年6月～7月に2回開催)
 - ・世界における近年のH5N1ウイルスの発生状況
 - ・国立感染症研究所における、ベトナム株・インドネシア株ワクチン接種者の血清と現在の流行株(clade1系では2009-2012年に分離された株、clade2.1系では2011-2012年に分離された株)との反応性の試験等

3. ワクチン作業班会議における検討結果 (資料2、6-11頁参照)

- 今年度の備蓄株はベトナム株・インドネシア株とする。
(理由：近年においてもclade1系(ベトナム株)やClade2.1系(インドネシア株)の発生が確認されていること。平成26年3月に現在備蓄しているベトナム・インドネシア株の使用期限が切れること。)
- ベトナム株(Clade1)：既存株(A/Vietnam/1194/2004)を使用する。
(理由：現在国内で保有している既存株(A/Vietnam/1194/2004)は、近年カンボジア等で流行している株と交叉反応性が確認されたこと。他の株(インドネシア株、チンハイ株、アンフィ株)に対し最も幅広い交叉基礎免疫を誘導できることが期待できることから、ベトナム株を優先することが望ましいが、ベトナム株は増殖性が悪い(製造効率が悪い)ことを留意し、製造量を検討する必要がある。)
- インドネシア株(Clade2.1.3.2)：既存株(A/Indonesia/5/2005)を使用する。
(理由：現在国内で保有している既存株(A/Indonesia/5/2005)は、近年インドネシアで流行している株と交叉反応性が確認されたこと。)